

会議記録

会議名称	令和4年度第2回北本市行政改革推進委員会
開会及び閉会日時	令和5年2月16日(木) 午前9時30分から午前11時10分まで
開催場所	会議室3-F
議長氏名	委員長：下垣彰
出席委員(者)氏名	秋葉清、新井康夫、金網幾代、諏訪千加子、土屋雄一、樋口恵子
欠席委員(者)氏名	無し
事務局職員職氏名	行政経営課長：福島弘行 同課事務管理担当主幹：高橋弘 同課企画調整担当主任：國友裕太
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事務事業の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育支援事業 ・学力向上推進事業 3 その他 4 閉会
配付資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 基本事業の総点検に係る点検結果 2 本日のスケジュール 3 事務事業評価シート「学校教育支援事業」 4 事務事業評価シート「学力向上推進事業」 5 学校教育課資料 6 チェックシート

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>1 開会</p> <p>北本市行政改革推進委員会を開会する。</p> <p>はじめに、会議の成立について確認する。「北本市行政改革推進委員会規則」第5条第2項に「委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」と規定しているが、本日は全員が出席していることから会議が成立することを報告する。</p>
事務局	<p>2 議事</p> <p>(1) 事務事業の見直し</p> <p>「北本市行政改革推進委員会規則」第5条第1項に「委員会は、委員長が招集し、会議の議長となる」と規定されているので、会議の進行については、委員長に願います。</p>
委員長	<p>事業の概要、目的、効果等について所管課より説明をお願いします。</p> <p>【所管課説明】</p>
委員	<p>私は、北本高校の評議員をしており、その関係で東中の校長と話す機会があった。北本には学校の支援員がいるため、随分恵まれた環境であるといった話がでていた。他の市にはいないため、学校の先生が駆けずり回っている状況である。学校支援の取組みが北本の教育環境が良くなってきている要因であると考えます。よって、あえて今回取り上げた事務事業について見直す必要があるのか疑問である。</p>
委員長	<p>今回取り上げた事務事業について、どのようなことを本委員会に提言してほしいのかを事務局に聞きたい。</p>
事務局	<p>「学校教育支援事業」及び「学力向上推進」については、いずれも事業単位が大きく、複数の事務事業が含まれているため、事業の実態が見えにくく、効果検証が難しいため、事業単位を細分化すべきというのが基本事業の総点検の点検結果であった。事務局としては、よい取組みを廃止や縮小するといったことではなく、所管課の提案する細分化した事業単位について、御意見をいただきたいと考えている。</p>

発言者	発言内容・決定事項
委員	<p>2点聞きたい。一つ目は、支援員は、資料の人数を合計すると47名である。その中のICT支援員は1名だが、この人数で足りているのか。二つ目は、学力向上推進事業のナイトスクールや土曜補習の対象者について、児童生徒本人や保護者の希望に基づくのか、それとも学力等で対象者を決めているのか、対象者の選定方法を聞きたい。</p>
学校教育課	<p>ICT支援員は、いろいろなシステムの設定や学校での活用に関する研修等を行っており、正直1名では足りない。現状はフル回転してなんとか回している状況である。そのため、若くてコンピューターの操作に長けている職員にも協力いただき、自身の在籍する学校だけでなく、他校でもICT利活用について講師を務めるなど、ICTの活用普及を進めている。具体的な例としては、健康観察が挙げられる。朝の体温チェックを以前は入校前に紙で行っていたが、タブレットを使用して、家で入力してもらったものを学校で集約できるようにした。このような取組を他校にも伝達し、市内全校で共有している。</p> <p>ナイトスクールは、基本的に本人と保護者の希望により参加者を決定している。特に児童については、休日で保護者の付添いや送迎を必要とする場合もあることから、保護者の理解を得た上で実施している。</p> <p>また、学習が遅れている児童生徒に対して、学校側から参加を促す場合もある。</p>
委員	<p>学校4・3・2制と不登校対策が一括りになっている。中1ギャップが大きな問題というのは理解できるが、具体的にどの学年にどのくらいの不登校の児童生徒がいるのか、またそれらの不登校の児童生徒にどのような対策がとられているのか、お聞きしたい。</p>
学校教育課	<p>不登校の児童生徒の具体的な数は、準備していなかったもので、この場では答えられないが、コロナの影響もあり、昨年度の同時期より微増の傾向である。対策として、小中一貫教育を行い、様々な交流事業を実施している。例えば、挨拶運</p>

発言者	発言内容・決定事項
委員	<p>動や中学生が小学校に行き、音楽や歌を聞かせに行く音楽会等が挙げられる。また逆に小学生が中学校に行き、部活動の体験をする等の中1ギャップの軽減を図っている。</p> <p>その他、教員の交流も行っている。私が教員になりたての頃は、小中一貫の取組みがなかったため、小学校の教員と中学校の教員でそれぞれに考え方が異なり、相互理解が得られない状況であった。しかし、北本市で勤めるようになり、小中一貫の取組みに携わる中で、小学校と中学校の教員の相互理解が進み、小中の9年間で先を見通した指導をしていこうといった機運が高まり、教員の意識が変わったように思う。</p> <p>子どもたちが自分は認められているかということについてのアンケートを行う学級満足度調査というものがあるが、全ての項目で、全国平均を上回っており、このことは、小中一貫教育の取組みを始めて約10年の成果であると考えている。</p> <p>その他、様々な事情で不登校になっている児童生徒に対して、タブレット等を使って、相談できる体制づくりへの取組みや、学力を直接学校以外でも向上できるような場を設けることで、子供たちの不登校を減らしていきたいと考えている。</p> <p>これからもSDGsのように誰も置き去りにしない教育をお願いしたい。</p>
委員長	<p>学校教育課の説明を受けたが、いろいろな話が混ざっていて、よく分からないという状況である。そこでBSC、バランススコアカードというものがあり、その視点から考えてみたい。これは、企業の経営戦略を立てる際に用いられ、財務面の価値、顧客の価値、業務プロセス、学習支援といった視点で戦略目標を立てるものである。本委員会でも今回取上げている事業が実施しているのは、業務プロセスに該当する。教育を行う上で、業務プロセスをどのように組み立てるのか。お客さんは市民であり、子どもの親であり、子どもであり、そして市では高等教育は行っていないので、対象は小中学校</p>

発言者	発言内容・決定事項
	<p>である。それらに対しての小中学校の学習内容を理解してもらおうとか、あとロジックモデルのシートには書かれてないが、学ぶことを楽しいと思うとか、感動するとか、そういったことが学校の教育のターゲットである。学校での教育において何をどういう状況にしたいのかというターゲットがあり、それに対して阻害している困りごとがあるから、こういう施策を行っているのだと、この施策によってどれそれがどこまで解決したのかという指標があれば、それは定量的でなくとも、この問題が解決されているので効果があるねとか、ないから見直しが要るよねとか、そういう話ができるのである。括りの単位よりもこのような関係性をもう少し見えるようにしてほしい。</p> <p>このような視点で、もう一度聞いてみたいのだが、すべての事業の話しを聞くことは時間的にもむずかしい。よって、一つ二つでもいいので、例えば、学校4・3・2人制の非常勤講師、これは、どういうことを達成したくて、でもそれができないこういうことがあって、これをやることでどういう効果がある、といった視点で、もう一度話してもらいたい。そうすると効果が出ている点や見直すべき点等についての議論がしやすくなる。</p>
学校教育課	<p>学校4・3・2制非常勤講師の支援員については、小中一貫教育の推進のために配置しており、その目指しているところの一つは、中1ギャップの軽減を図ること。もう一つは学力の向上である。</p>
委員長	<p>学力の向上やそのために中1ギャップの軽減を図りたいというのは、お客さんへの価値の提供である。これらを実現するために、例えば、理科の準備に時間が取られるといった話が先程あったが、時間が取られることでやりたいことの何ができないのか。</p>
学校教育課	<p>子どもと関わる時間が減ってしまう。</p>
委員長	<p>子どもと関わる時間を減らさないようにして、何を達成したいのか。</p>

発言者	発言内容・決定事項
学校教育課	子どもと正対して、話を聞くことや学習支援の時間を増やしたい。
委員長	そうすると何が良くなるのか。
学校教育課	通常の授業の時間だけで理解できない子を教員が把握し、フォローすることができる。
委員長	そのような効果のために、理科の準備等のサポートをするために非常勤の支援員を8名置いている、ということでしょうか。
学校教育課	現状そうになっている。
委員長	<p>こういう体制でこういう施策をすることで、この問題はどこまで解決できて、この達成したいことがどこまでできるようになっているのかというのが、効果である。このような形で、今の状況を整備してもらえるとすごくわかりやすくなり、委員もコメントし易い。学校教育課にとっても、どういうことを次やればいいのか分かり易くなると思うのだが、他の委員の意見も聞いてみたい。</p>
委員	<p>私は小学校の協議会のメンバーを務めており、支援員については、授業参観で見る機会があった。担任の先生が話をしているときに、集中して聞けない子に、支援員が教室を回り、補佐をしている様子からとても良い印象を受けた。また図書館指導員についても、おすすめの本の選定など、図書館に係る事務を広く担当しており、先生の学校の方からの評判も良いようである。支援員のおかげで、例えば、小学校の1年生については、クラス人数を減らして授業を実施することができている。</p> <p>ただ小学校の教室に入っている支援員と4・3・2制の支援員のどちらの指導員がどこの役割を担当しているのか等、分かりづらいつ感じている。</p>

発言者	発言内容・決定事項
	<p>他方、学力向上や体力向上というのは数字で出るので、明確だが、不登校対策や4・3・2制等の効果は、数字に出ないものである。教育の中には事業効果の測定できないものもたくさんあると思うので、基本事業の総点検での、事業効果を明確にできるように見直してほしいとの意見について、これはとても難しいことなのではないかと感じた。支援員については、継続してほしいと考えている。</p>
葉委員	<p>私も見直す必要が無いと考えている。</p>
委員	<p>学校4・3・2制の支援員が8名であるのに対し、学校は11校あるが、これは各校に1名ずつ常に張り付いているわけではないということか。そうすると、各支援員の人数はどのような考えで設定しているのか。ICT支援員は1名しかいないのに対し、学校図書館指導員は11名もいる。何をやって11名なのか。果たして11名が必要なのか。その費用対効果の考えも必要であると考えてるので、足りてないところには補充する必要があるし、逆に余っているところは、削ってもいいのではないか。</p>
委員長	<p>掛け持ちでできるような時間単位で実施しているのではないか。勤務体系はどのようになっているのか。</p>
学校教育課	<p>図書館指導員については、1日5時間で週3日、週15時間の勤務体系になっている。また学校が求めている時間帯として、夕方に委員会活動で、来てもらうこともある。正直なところ、教員で図書に明るい者もいれば、読書経験が少ない教員もいる。そのような中、授業で図書室を使うこともあるが、教員だけだと、子どもが求めている本をすぐに見つけられないとか、子どもの課題とニーズに合った本を探せないといったことが生じ、そこでまた時間が余計にかかってしまう可能性がある。このようなことを避けるためにも図書館指導員を各校に配置している。</p> <p>学校4・3・2制非常勤講師については、全校に配置はできていない。現在8名だが、複数校兼務の方もいる。人材の確保等も課題もあるが、なるべく多く支援員を学校に配置</p>

発言者	発言内容・決定事項
委員	<p>し、教員の時間が確保できる体制にしていきたいと考えている。</p> <p>いくつか聞きたいが、まず各種支援員の採用はどのように行っているか。</p>
学校教育課	<p>支援員という名称がついているものは、会計年度任用職員で、1年契約である。年度末に面談を行い、本人の意向も聞いたうえで、勤務形態を決めている。</p>
委員	<p>ALTはどのような形態となっているか。</p>
学校教育課	<p>ALTは、プロポーザル形式による2年の委託契約で、業者選定委員会を開き、業者を選定している。その業者が外国語指導助手を派遣している。</p>
委員	<p>理解した。次に事務事業評価シートの成果指標を見たが、成果が見えてこない。いくつか事業をしていると思うが、例えば支援員を毎年契約している中で、1年間に何をやったのか。過去の評価シートも見たが、毎年同じ成果指標で、個別の支援員の成果がやはり見えてこない。支援員同士の交流はあるのか、どのような会議に出ているのか。事務事業評価を毎年行っているのは、継続的な改善に向けた取組み等のプロセスの積み上げであって然るべきだと考えるが、そういったことが評価シートの中に一切出てこない。支援員の役割についてもただ学校の先生の負担の軽減だけではなく、事業の目的が中1ギャップの軽減など細かな支援を行って、学力向上に対して取りこぼしを無くすことだとすれば、学力向上支援員の役割は、ただ学級担任の補助をするだけではなくて、例えば土曜補習に関わる等、その在り方についても検討すべきであるとする。</p> <p>ナイトスクールは中学3年生の高校進学に向けた取組みと聞いたが、高校に上がる方々の学力向上がこの事業の中で本当にやるべきことなのか疑問である。</p> <p>ALTについても、例えば、ALTの人たちが集まって、</p>

発言者	発言内容・決定事項
委員長	<p>小学生と触れ合うイベントに参加してもらうことや地域の取組みに積極的に関わってもらうとか、教材についても独自の小学校の英語教育の教材を作ってもらう等、継続的な改善に向けた創意工夫があって然るべきだが、そのようなものが見えない。</p> <p>やはり継続的改善が最も重要である。最初に学びの中で達成したいことと、その中で困っていることを解決するという二つのターゲットがあって、そのためにいろいろな施策を行っている。それらの達成状況を見て次にどういうアクションを行うのか。このようなサイクルを継続的に回すことが重要であり、そのためには、改善サイクルが見えるようにすべきである。見えるようにしたらいろいろなアクションが皆さんでどんどん出てくると思うし、また支援員の方からも、ここまで来たのだから次こうさせてほしいとか、現場からいろいろな声が上がってくるようになると思う。他に意見はあるか。</p>
委員	<p>ナイトスクールと土曜補習だが、どちらも実施回数が少ない。また、どちらも中学3年生を対象としていることから、高校進学のためだけのナイトスクールはやめて、土曜補習に一本化し、実施回数を増やすことを検討してほしい。</p> <p>その他、不登校について、これはとても大きな問題なので、4・3・2制の推進事業とはまた別の事業ではないかと考える。</p>
委員長	<p>支援事業をたくさん実施しているが、小学校1年から中学校3年までの中で、どの学年にどのような課題があって、だからこういう支援をしていくといった位置付けがほしい。成長、教育していく中で、一律で実施しているわけではないので、例えば、この支援事業については中学の2～3年をターゲットにしているとか、小学校から中学校の全体を通したマップを考えてほしい。そうすることで、例えばナイトスクールではなく、他の事業に予算を振り替える等、検討することができる。</p>

発言者	発言内容・決定事項
委員	<p>不登校対策について、スクールソーシャルワーカーは児童生徒が置かれた諸問題、主に家庭環境の問題について相談を受け、学校関係機関と連携しながら解決を図っていくということから重要な役割を持っていると考えるが、配置が2名というのは少ないのではないか。</p> <p>その他、社会全体の課題として若年者の離職が多い。就職したが想像と実態のギャップが原因であると思われる。小中学校で自分が何に適しているのか、またどうなりたいたいのか、自分を見出し、自分の自信として持っていけるような、そのような環境を作ることができるかというのではないか。今回の資料で児童生徒プレゼンコンクール事業というものを新たに始めるようだが、この事業をどのように考えているのか。</p>
学校教育課	<p>プレゼンコンクール事業は、基本事業の総点検の中で新規事業として提案されたものである。これまでも児童生徒が学んだことや理解したことを発表する場については、学校単位で個々に実施してきたが、総点検の結果を踏まえ、オンラインを利用し、市内外の学校間で、学習の成果を発表できるような場を設けたいと考えている。</p>
委員長	<p>学校教育課への質疑は以上とする。</p> <p>【所管課退室】</p>
委員長	<p>各委員は、チェックシートを記入のこと。</p> <p>【各委員 チェックシート記入】</p>
委員長	<p>まず、方向性について意見として、教育現場における教員の時間的負担に対し、支援員の配置はとても重要であり、基本的に継続とのことである。ただし、一つ一つの事業は大変素晴らしいが、個々の取り組みの目的や効果が見えないので、見えるようにしたうえで、継続的な改善に繋げてほしいというものがあつた。</p> <p>その他、個別施策についての意見として、児童生徒が置か</p>

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>れた諸問題に重点を置き、取りこぼしが無い学力向上を目指してほしいといったもの、土曜補習及びナイトスクールについては、重複した部分があるため、1本化して充実した内容にしてほしいといったもの、どの事業も他の事業との関連が多く、連携して推進してほしいといったもの等があった。</p> <p>全体についての意見としては、ターゲットを明確にして、PDCAを回していくというものである。一つ一つの施策が、何をターゲットに、どの程度の予算規模で実施しているのか、結果を検証したうえで、施策見直しができるよう整理すべきである。</p> <p>結論として、個別の施策を判断するためには、小学校から中学校までを通して、成長段階ごとの課題を明確にし、その課題を阻害する要因と課題を解消するための施策を検討することが必要である。</p> <p>個々の取組みそのものは素晴らしいものであると考えるが、基本事業の総点検の結果にもあるように、現在の事務事業については、いずれも単位が大きく、様々な取組みが内包しており、学校教育課からの説明を聞かなければ、事務事業評価シートだけ見ても、何をやっているのか分からない。これらを踏まえ、単に事業を細分化するのではなく、本日の委員会の意見で出たターゲットを達成するための施策を再度検討し、設定した施策を市の行政評価の取組として実施している事務事業の単位とし、評価をしていくことがPDCAを回していくことに繋がると考える。</p>
委員長	<p>見直し、継続、その他とでたが、纏まり切らない部分もあることから、これまで出た意見の方向性で、事務局の方で纏めてもらうということによいか。</p>
委員一同	<p>【了承】</p>
委員長	<p>以上で本日の審議を終了する。</p> <p>その他、各委員から質問等あるか。</p>

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>無いようなのでこれで議事を終了し、進行を事務局にお返しする。</p> <p>3 その他 その他、質問等あるか。</p> <p>【委員質問なし】</p> <p>【事務局次回開催の日時説明】</p> <p>4 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。

令和 5 年 3 月 16 日 委員長 下西 章